ネットワーク階層の設計

- ネットワーク階層の概要 （1 ページ）
- 新しいネットワーク階層の設計 （3 ページ）
- 既存の Cisco ネットワーク階層の使用 （3 ページ）
- 既存の Ekahau ネットワーク階層の使用 （7 ページ）
- Catalyst Center からのネットワーク階層のエクスポート （11 ページ）
- ネットワーク階層の検索 （13 ページ）
- 新しいネットワーク階層の作成 （13 ページ）

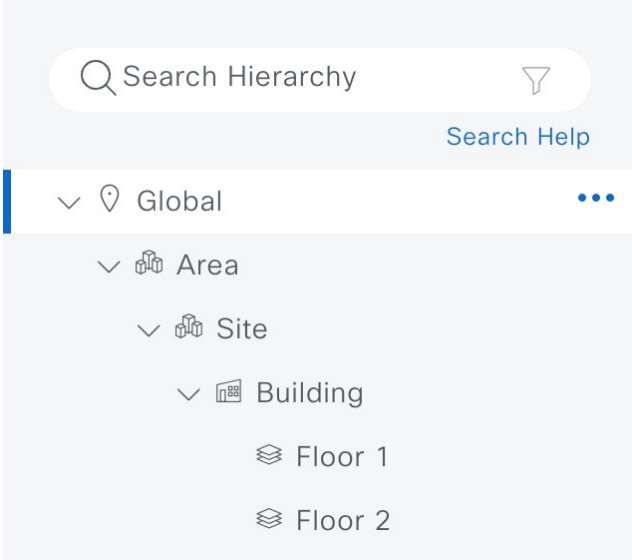
ネットワーク階層の概要

ネットワークの地理的な場所を表すネットワーク階層を作成できます。この階層構造により、デザインの設定や構成を特定の階層要素に簡単に適用できます。たとえば、デザインの設定をエリア全体に適用したり、床のみに適用したりすることができます。

デザインの設定を適用する場所を後で識別できるように、階層要素に名前を付けることができます。

作成できる階層要素には、その階層要素をどの要素に配置できるか、またどの要素をその階層要素に配置できるかを指定するルールがあります。次の図と説明を参照してください。

図 *1:* ネットワーク階層



- [Global]：他のすべての階層要素がその中に存在するデフォルトの要素。[Global] の直下に配置できる要素は、エリアまたはサイトのみです。

- [Areas] と [Sites]（ ）：エリア（Area）とサイト（Site）は、[Global] または他のエリアやサイトに存在します。エリアとサイトには物理アドレスがありません。最大の要素として、地理的地域を識別します。これらは、エリアまたはサイトをグループ化する方法を提供します。

- [Buildings]（ ）：建物（Building）は、エリアまたはサイトに存在します。建物を作成する場合、物理アドレスまたは緯度と経度の座標を指定します。建物にエリアを含めることはできません。ただし、フロアを含めることはできます。

- [Floors]（ ）：フロア（Floor）は建物に存在します。壁や窓など、建物のさまざまなコンポーネントを含むマップの有無にかかわらず、建物にフロアを追加できます。フロアマップを使用する場合は、手動で作成するか、DXF、DWG、JPG、GIF、PNG、または PDF を含むファイルタイプのファイルからインポートできます。次に、ワイヤレスデバイスをフロアマップに配置して、ワイヤレスネットワークのカバレッジを視覚化できます。

  プロビジョニングされていないデバイスのサイト階層は、フロアマップ上の AP の場所を維持したまま変更できます。ただし、既存のフロアを別の建物に移動できないことに注意してください。

開始するには、次のいずれかの方法を使用してネットワーク階層を構築します。

- 新しいネットワーク階層を作成する。詳細については、「新しいネットワーク階層の作成（13 ページ）」を参照してください。

- Cisco Prime Infrastructure または Ekahau Pro から既存のネットワーク階層をインポートする。詳細については、「既存の Cisco ネットワーク階層の使用 （3 ページ）」または「既存の Ekahau ネットワーク階層の使用 （7 ページ）」を参照してください。

新しいネットワーク階層の設計

[Design]領域では、ネットワーク全体のデバイスに適用可能な物理トポロジ、ネットワーク設定、デバイスのタイプやプロファイルなど、ネットワークの構造とフレームワークを作成します。既存のインフラストラクチャがない場合は、設計ワークフローを使用します。既存のインフラストラクチャがある場合は、**ディスカバリ**機能を使用します。詳細については、「検出の概要」を参照してください。

これらのタスクは、[Design] 領域で実行します。

手順

ステップ 1 ネットワーク階層を作成します。詳細については、サイトの作成、編集、削除 （14 ページ）を参照してください。

ステップ 2 グローバル ネットワーク設定を定義します。詳細については、ネットワーク設定の概要を参照してください。

ステップ 3 ネットワーク プロファイルを定義します。詳細については、ネットワークプロファイルの概要を参照してください。

既存の Cisco ネットワーク階層の使用

Cisco Prime Infrastructure に既存のネットワーク階層がある場合は、エクスポートしてから Catalyst Center にインポートすることで、新しいネットワーク階層の作成に費やす時間と労力を削減できます。

次の情報を使用して、ネットワーク階層を再作成できます。

- **サイト階層**：既存のサイト階層を CSV ファイル形式でダウンロードします。CSV ファイルには、サイト名、親階層、フロア数、場所、サイトアドレスなどの詳細が含まれています。
- **マップアーカイブ**：マップ情報を TAR ファイル形式のマップアーカイブとしてダウンロードします。マップアーカイブファイルには、日時、フロアの数、AP などのデータが格納されます。ダウンロードするものに応じて、マップアーカイブには、フロアの寸法（長さ、幅、高さ）や、フロアマップに配置されている AP およびオーバーレイオブジェクトに関する詳細などのマップ情報も含めることができます。各フロアに適用されている RF 減衰モデルなどのキャリブレーション情報をダウンロードすることもできます。

マップアーカイブの基礎をグローバル階層に置くか、次のように単一のサイト、建物、またはフロアの階層に置くかを選択できます。

- [Site]：選択したサイトとそのすべてのサブサイト、建物、およびフロアがエクスポートされます。
- [Building]：選択した建物とそのすべてのフロアがエクスポートされます。
- [Floor]：選択したフロアがエクスポートされます。

（注） Catalyst Center は米国の連邦情報処理標準（FIPS）をサポートしています。FIPS は、Catalyst Center イメージのインストール時に有効にできるオプションのモードです。デフォルトでは、FIPS モードはディセーブルです。

FIPS モードは、マップアーカイブのエクスポートとインポートに次の影響を与えます。

FIPS モードが有効な場合：

- エクスポートされるマップアーカイブは暗号化されません。
- 暗号化されていないマップアーカイブのみをインポートできます。

FIPS モードが無効な場合：

- エクスポートされるマップアーカイブは暗号化されます。
- 暗号化されたマップアーカイブと暗号化されていないマップアーカイブの両方をインポートできます。

Cisco Prime Infrastructure からのサイト階層のエクスポート

Cisco Prime Infrastructure からサイト階層を CSV ファイル形式でエクスポートできます。CSV ファイルには、サイト名、親階層、フロア数、場所、サイトアドレスなどの詳細が含まれています。

サイト階層のエクスポートは Cisco Prime Infrastructure リリース 3.2 以降でサポートされます。

手順

ステップ 1 Cisco Prime Infrastructure で、**[Inventory]** > **[Group Management]** > **[Network Device Groups]** の順に選択します。

ステップ 2 [Device Groups] ウィンドウで、[Export Groups] をクリックします。

ステップ 3 [Export Groups] ダイアログボックスで、[APIC-EM] オプションボタンをクリックします。

ステップ 4 CSV ファイルをダウンロードするには、[OK] をクリックします。

Cisco Prime Infrastructure からのマップアーカイブのエクスポート

Cisco Prime Infrastructure からマップアーカイブファイルをエクスポートし、それらを Catalyst Center にインポートできます。マップアーカイブには、フロア寸法などのマップ情報と Cisco Prime Infrastructure の各フロアに適用されている無線周波数（RF）減衰モデルなどのキャリブレーション情報が含まれています。

手順

ステップ 1 Cisco Prime Infrastructure GUI から、**[Maps]** > **[Wireless Maps]** > **[Site Maps (New)]** の順に選択します。

ステップ 2 **[エクスポート（Export）]** ドロップダウン リストから **[マップ アーカイブ（Map Archive）]** を選択します。

[Export Map Archive] ウィンドウが開き、デフォルトで [Select Sites] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 エクスポートする特定のサイト、キャンパス、ビルディング、またはフロアの横にあるチェックボックスをオンにします。すべてのマップをエクスポートする場合は、[Select All] チェックボックスをオンにします。

ステップ 4 次のオプションの少なくとも 1 つを選択します。

- [Map Information]：[On] ボタンをクリックして、フロアの寸法（長さ、幅、高さ）と、フロアマップに配置された AP およびオーバーレイオブジェクトに関する詳細をエクスポートします。
- [Calibration Information]：[On] ボタンをクリックして、各フロアに適用されている RF 減衰モデルをエクスポートします。既存のキャリブレーションデータを Cisco Prime Infrastructure からエクスポートすることをお勧めします。それ以外の場合は、キャリブレーションの詳細を手動で再入力する必要があります。

  キャリブレーション情報を含めることを選択した場合は、次のように、選択したマップの情報を含めるか、すべての情報を含めるかを指定する必要もあります。

  - [Calibration Information for selected maps]：選択したサイトマップのキャリブレーション情報がエクスポートされます。
  - [All Calibration Information]：選択したマップに加えて、システムで使用可能なその他のキャリブレーション情報もエクスポートされます。

ステップ 5 **[** マップアーカイブを生成（Generate Map Archive） **]** をクリックします。

次のメッセージは、操作の進行状況を示しています。

```
Exporting data is in progress
```

TAR ファイルが作成され、ローカルマシンに保存されます。

ステップ 6 [Done] をクリックします。

Catalyst Center へのサイト階層のインポート

Cisco Prime Infrastructure から CSV ファイルとしてエクスポートしたサイト階層をインポートできます。サイト階層のエクスポートについては、Cisco Prime Infrastructure からのサイト階層のエクスポート （4 ページ）を参照してください。

始める前に

- Catalyst Center インベントリにシスコ ワイヤレス コントローラおよび AP があることを確認します。ない場合は、[Discovery] 機能を使用して検出します。
- フロアマップ上に AP を追加して配置します。
- Cisco Prime Infrastructure にあるサイトを Catalyst Center で手動作成した場合は、インポートする前にそれらのサイトを Catalyst Center から削除する必要があります。

手順

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design]** > **[Network Hierarchy]**。

ステップ 2 マップツールバーから [Import] をクリックし、[Import Sites] を選択します。

ステップ 3 ダイアログボックスで、次のいずれかのオプションボタンをクリックします。

- [Merge with Existing Sites]：ダウンロードしたサイト情報を既存のサイト情報と結合します。
- [Overwrite Existing Sites]：Catalyst Center に同じサイトがすでに存在する場合、既存のサイト情報はダウンロードしたサイト情報で上書きされます。

ステップ 4 ダイアログボックスで、CSV ファイルをダウンロードエリアにドラッグアンドドロップします。または、[Choose a file] をクリックして CSV ファイルの場所に移動し、[Import] をクリックすることもできます。

（注） CSV ファイルがない場合は、[CSV Template] をクリックして、CSV ファイルをダウンロードし、編集してからアップロードできます。

Catalyst Center へのマップアーカイブのインポート

マップアーカイブ TAR ファイルを Catalyst Center にインポートできます。たとえば、Cisco Prime Infrastructure からエクスポートした TAR ファイルをアップロードできます。

（注） Catalyst Center は米国の連邦情報処理標準（FIPS）をサポートしています。FIPS は、Catalyst Centerイメージのインストール時に有効にできるオプションのモードです。デフォルトでは、FIPS モードはディセーブルです。

サイト階層のエクスポートについては、「Cisco Prime Infrastructure からのマップアーカイブのエクスポート （5 ページ）」を参照してください。

手順

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design]** > **[Network Hierarchy]**。

ステップ 2 マップツールバーから [Import] をクリックし、[Import Floor Maps] を選択します。

ステップ 3 [Import Floor Maps] ダイアログボックスに、マップアーカイブファイルをドラッグアンドドロップします。

ステップ 4 [Import] をクリックします。

マップアーカイブファイルがインポートされます。

既存の Ekahau ネットワーク階層の使用

Ekahau Pro ツールを使用すると、フロアレイアウト、AP の場所、障害物など、企業の完全なネットワーク計画を作成できます。フロアレイアウトを作成したら、シミュレートしたネットワーク計画を Ekahau プロジェクトファイルとしてエクスポートできます。実際のサイト調査データを、Catalyst Center で使用できる形式にエクスポートすることもできます。

Catalyst Center からの Ekahau プロジェクトのエクスポート

事前設定済み作業フロアを拡張するために、Catalyst Center では、Catalyst Center から作業フロアを Ekahau プロジェクトとしてエクスポートし、プロジェクトを Ekahau Pro ツールにインポートできます。

手順

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design]** > **[Network Hierarchy]**。

世界地図が右側のペインに表示されます。

ステップ 2 左側のペインで、目的のサイト、建物、またはフロアを選択します。

ステップ 3 完全なネットワークマップを Ekahau プロジェクトとしてエクスポートするには、[Export] ドロップダウンリストから [Export Floor Maps] を選択します。

サイト、建物、またはフロアマップの Ekahau プロジェクトをエクスポートするには、左側のペインで、サイト、建物、またはフロアの横にある省略記号 ••• にカーソルを合わせ、[Export Floor Maps] を選択します。

[Export Floor Maps] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [Export Floor Maps] ダイアログボックスで、[Ekahau Project] エクスポート形式を選択します。

ステップ 5 [エクスポート（Export）] をクリックします。

ESX ファイルが作成され、ローカルマシンに保存されます。

ステップ 6 ESX ファイルを Ekahau Pro ツールにインポートし、フロアを拡張して、ファイルを保存します。

ステップ 7 Ekahau プロジェクトをサイトの下の Catalyst Center にインポートします。詳細については、Ekahau プロジェクトを Catalyst Center にインポートします。 （8 ページ）を参照してください。

Ekahau プロジェクトを Catalyst Center にインポートします。

始める前に

Ekahau Cloud プロジェクトと同期していないローカルの変更（AP や壁の削除など）がプロジェクトにある場合、Ekahau Cloud プロジェクトのインポートが失敗する可能性があります。この状況を回避するには、ローカルの変更を Ekahau Cloud に同期してから、Ekahau Cloud プロジェクトを Catalyst Center にインポートしてください。

手順

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design]** > **[Network Hierarchy]**。

ステップ 2 サイト、ビルディング、フロアなどのネットワーク階層を設計します。

（注） 詳細については、サイトの作成、編集、削除 （14 ページ）、ビルディングの追加、編集、および削除 （15 ページ）、およびフロアの追加、編集、および削除 （16 ページ）を参照してください。

フロアを追加する際には、必ず、Ekahau プロジェクトで指定されたものと同じ名前でフロアを作成してください。

ステップ 3 左側のペインで、Ekahau プロジェクトをインポートするサイトの横にある省略記号 ••• のアイコンにカーソルを合わせて、[Import Ekahau Project] を選択します。

[Import Ekahau Project] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [Import Ekahau Project] ダイアログボックスのボックスエリアに ESX ファイルをドラッグアンドドロップするか、または [click to select] リンクをクリックして ESX ファイルを参照します。

（注） 建物をインポートするには、Ekahau プロジェクト内に座標が含まれている必要があります。Ekahau Pro で座標を追加できます。Ekahau プロジェクトのインポートが成功すると、計画された各 AP は、AP 名を使用してインベントリ内の既存の実際の AP にマッピングされます。計画された AP は、フロアマップ上にアイコン [P] とともに表示されます。たとえば、計画済みの AP の名前が SJC01-02-AP-B-1 の場合、インポートプロセスでは同じ名前の実際の AP が検索されます。

ステップ 5 インベントリで AP が見つからず、マッピングが解除されたままの場合、計画された AP はフロア上に保持されます。

不一致の理由を表示するには、フロアマップ上の計画された AP アイコンの上にカーソルを置いて、[Import History] をクリックします。

次の試行は、計画された AP を実際の AP にマッピングするために行われます。

- 新たに検出された AP が計画された AP と一致する場合、計画された AP は検出された実際の AP で置き換えられます。
- 計画された AP のマッピングが解除されたままの場合、計画された AP を実際の AP に手動で置き換えて、失敗の原因を示すことができます。

ステップ 6 実際の AP に計画された AP を手動で割り当てるには、フロアマップ上の計画された AP アイコンの上にカーソルを合わせて、[Assign] > [Assign] > をクリックします。

[Assign Planned APs] パネルが表示されます。

ステップ 7 [Assign Planned APs] パネルで、AP 名、AP タイプ、またはすべての AP によって計画された AP を実際の AP にマッピングします。

ステップ 8 AP 名の横にあるオプションボタンをクリックし、[Assign] をクリックして、計画された AP を手動で割り当てます。

ステップ 9 [Save] をクリックします。

Ekahau サイト調査の Catalyst Center へのインポート

ネットワーク階層を作成するには、Ekahau サイト調査ファイルと AP マッピングファイル（CSV 形式）をアップロードします。

Ekahau サイト調査には、フロアマップと、名前とマップ上の位置が分かっている AP のみが含まれます。デフォルトでは、AP モデルが Ekahau サイト調査で設定されていない場合があります。Catalyst Center へのインポートの前提条件は、Ekahau でプロジェクトを開き、Ekahau で許可されているモデル名（たとえば、Catalyst Center 9130 AP の場合は *Cisco C9130i*）を使用して AP モデルを設定することです。

Ekahau サイト調査では各 AP の無線に関する情報が Catalyst Center に提供されないため、AP マッピングファイルは、この情報を Ekahau サイト調査に追加します。AP マッピングファイルには、必要な AP マッピングを AP 名ではなく AP モデルによってのみ提供できるという制限

があります。そのため、同じタイプでアンテナ設定が異なる複数の AP がある場合、プロジェクトに含まれるそのタイプのすべての AP に適用できるアンテナ設定は 1 つだけです。

AP マッピングファイルの各 AP について、モデル番号と、その後に各アンテナの設定を定義します。

```
model,antennaName0,antennaAzimuth0,antennaElevation0,antennaName1,antennaAzimuth1,antennaElevation1
```

たとえば、次の AP マッピングファイルでは、2 つのアンテナを持つ Catalyst 9130I の設定が定義されます。

```
AP9130I,Internal-9130-2.4GHz,90d,0d,Internal-9130-5GHz,90d,0d
```

モデル属性は、Catalyst Center GUI の同等の計画済み AP モデルと同じである必要があります（たとえば、Catalyst Center 9130 AP の場合は AP9130I）。同様に、*antennaName* 属性も、Catalyst Center GUI で検出およびサポートされる名前と同じである必要があります。AP に 3 つ以上の無線がある場合は、引き続き *antennaName*、*antennaAzimuth*、および *antennaElevation* パラメータの *n* ベースの番号付けパターンを使用して、そのAPモデルでサポートされているスロット番号ごとに各無線のアンテナ情報を定義できます。

Catalyst Center には、ダウンロードして編集して必要な AP アンテナ情報を定義できる CSV テンプレートファイルが含まれています。

図 *2: CSV* テンプレートファイルには、次のフィールドとデフォルトが含まれています。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	model	antennaName0	antennaAzimuth0	antennaElevation0	antennaName1	antennaAzimuth1	antennaElevation1	antennaName2	antennaAzimuth2	antennaElevation2
2	AP2700I	Internal-2700-5GHz	90d	0d	Internal-2700-2.4GHz	90d	0d			
3	AP1850I	Internal-1850-5GHz	90d	0d	Internal-1850-2.4GHz	90d	0d			
4	AP3800E	AIR-ANT2524DB-R-5GHz	179.9543762d	0d	AIR-ANT2524DB-R-2.4GHz	179.9543762d	0d			
5										

AP が Catalyst Center デバイスインベントリにない場合、計画された AP としてインポートされます。ただし、命名規則を使用して、AP をデバイスインベントリに追加するときに、Catalyst Center ではそれを実際の AP に自動的に変換することができます。

命名規則は、AP の後に AP の MAC アドレスの最後の 4 桁が続きます（例：AP-c4:e0）。この情報を使用して、Catalyst Center は提供された数字を AP のイーサネット MAC アドレスまたは無線 MAC アドレスの最後の 4 桁と照合しようとします。この情報がない場合、または一致に失敗した場合は、Catalyst Center は AP 名の照合を試みます。

始める前に

- Ekahau でプロジェクトを開き、Ekahau で許可されているモデル名（たとえば、Catalyst Center 9130 AP の場合は *Cisco C9130i*）を使用して AP モデルを設定します。
- AP マッピングファイル（CSV 形式）を作成して、使用されている各 AP モデルの無線に関する情報を Catalyst Center に提供します。

手順

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Design] > [Network Hierarchy] の順に選択します。

ステップ 2 [Add Site] > [Add Area] をクリックします。

または、左側のペインで [Global] または親サイトの横にある省略記号 ••• にカーソルを合わせ、[Add Area] を選択することもできます。詳細については、サイトの作成、編集、削除 （14 ページ）を参照してください。

ステップ 3 左側のペインで、作成したサイトの横にある省略記号 ••• アイコンにカーソルを合わせて、[Import Ekahau Survey] を選択します。

ステップ 4 [Import Ekahau Survey] ダイアログボックスの [Ekahau Survey] ボックス領域に、Ekahau 調査ファイルをドラッグアンドドロップするか、または [Choose a file] リンクをクリックして ESX ファイルを参照します。

ステップ 5 CSV ファイルを [AP Mapping CSV] ボックス領域にドラッグアンドドロップするか、[Choose a file] をクリックして CSV ファイルを参照します。

（注） CSV ファイルがない場合は、[Download AP Mapping Template] をクリックして、編集可能な CSV ファイルをダウンロードして、アップロードすることができます。

ステップ 6 [Import] をクリックします。

ファイルが正常にダウンロードされると、成功メッセージが表示されます。

ステップ 7 [View Hierarchy] をクリックし、フロアに移動して、デバイスがインポートされ、適切に配置されていることを確認します。

詳細を表示するには、デバイスにカーソルを合わせます。

Catalyst Center からのネットワーク階層のエクスポート

サイト階層を CSV 形式のファイルにエクスポートできます。完全なネットワークマップ（グローバル階層）、またはサイト、建物、フロアの階層をエクスポートすることもできます。Cisco Prime Infrastructure または Ekahau Pro 形式のいずれかを選択できます。ネットワーク階層をこれらの形式にエクスポートすると、これらのツールでネットワーク階層を引き続き操作できます。

Catalyst Center からのサイト階層のエクスポート

サイト階層を CSV 形式のファイルにエクスポートできます。CSV ファイルには、サイト名、親階層、フロア数、場所、サイトアドレスなどの詳細が含まれています。

手順

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design]** > **[Network Hierarchy]**。

ステップ 2 マップツールバーから [Export] をクリックし、[Export Sites] を選択します。

ステップ 3 [Export Sites] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

Catalyst Center からのマップアーカイブのエクスポート

完全なネットワークマップ（グローバル階層）、またはサイト、建物、フロアの階層を Cisco Prime Infrastructure または Ekahau Pro 形式のいずれかにエクスポートすることができます。最大 500 のフロアをエクスポートできます。

（注） Catalyst Center は米国の連邦情報処理標準（FIPS）をサポートしています。FIPS は、Catalyst Centerイメージのインストール時に有効にできるオプションのモードです。デフォルトでは、FIPS モードはディセーブルです。

FIPS モードは、マップアーカイブのエクスポートとインポートに次の影響を与えます。

FIPS モードが有効な場合：

- エクスポートされるマップアーカイブは暗号化されません。
- 暗号化されていないマップアーカイブのみをインポートできます。

FIPS モードが無効な場合：

- エクスポートされるマップアーカイブは暗号化されます。
- 暗号化されたマップアーカイブと暗号化されていないマップアーカイブの両方をインポートできます。

手順

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design]** > **[Network Hierarchy]**。

ステップ 2 完全なネットワークマップをエクスポートするには、マップツールバーの [Export] をクリックし、[Export Floor Maps] を選択します。

サイト、建物、またはフロアマップの階層をエクスポートするには、左側のペインで、サイト、建物、またはフロアの横にある省略記号（...）にカーソルを合わせ、[Export Floor Maps] を選択します。

エクスポートされる情報は、選択内容によって異なります。

- [Site]：選択したサイトとそのすべてのサブサイト、建物、およびフロアがエクスポートされます。
- [Building]：選択した建物とそのすべてのフロアがエクスポートされます。
- [Floor]：選択したフロアがエクスポートされます。

ステップ 3 [Export Floor Maps] ダイアログボックスで、[Ekahau Project] または [Prime] オプションボタンのいずれかをクリックします。

ステップ 4 [Export] をクリックします。

ネットワーク階層の検索

ネットワーク階層を検索し、サイト、ビルディング、またはエリアをすばやく見つけることができます。これは、多くのサイトやエリア、ビルディングを追加した後に特に役立ちます。

手順

ステップ 1 階層を検索するには、左側のペインの [Search Hierarchy] 検索フィールドで、検索するサイト、建物、フロア名の名称の一部または正式名称のどちらかを入力します。

階層は、検索フィールドに入力したテキストに基づきフィルタリングされます。

ステップ 2 [Site Name] と [Site Type] のフィルタ基準で階層を検索するには、[Search Hierarchy] 検索フィールドのフィルタアイコンをクリックし、次の手順を実行します。

1. [Site Name] フィールドに検索するサイトの名前を入力します。
2. 検索結果にすべての建物の住所を含めるには、[Include Address for all Building] チェックボックスをオンにします。
3. [Site Type] 領域で、フィルタ条件に含める [Area]、[Outdoor Area]、[Building]、または [Floor] の横にあるチェックボックスをオンにします。
4. [Search] をクリックします。

   フィルタ基準に基づいて、階層がフィルタリングされます。
5. 左側のペインの検索条件を除外するには、それぞれの条件の横にある X マークをクリックします。

新しいネットワーク階層の作成

新しいサイト（またはエリア）、建物、およびフロアを作成して、新しいネットワーク階層を作成します。

サイトの作成、編集、削除

Catalyst Center では、物理サイトを簡単に定義し、それらのサイトの共有リソースを特定することができます。[Design] エリアは、直観的な操作のために階層型になっており、デバイスをプロビジョニングするときに同じリソースを複数の場所で再定義する必要がありません。デフォルトでは、**グローバル**と呼ばれる1つのサイトがあります。ネットワーク階層には、複数のサイト、ビルディング、およびエリアを追加できます。プロビジョニング機能を使用する前に、少なくとも 1 つのサイトを作成する必要があります。

手順

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design]** > **[Network Hierarchy]**。

世界地図が右側のペインに表示されます。

ステップ 2 このウィンドウから、サイトを追加、編集、および削除できます。詳細については、次の表を参照してください。

アクション	手順
サイトを追加します。	**1.** マップツールバーから、**[+ Add Site]** > **[Add Area]** をクリックします。 または、左側のペインで親サイトの横にある省略記号 ••• にカーソルを合わせ、[Add Area] を選択することもできます。 **2.** [Area Name] フィールドに、サイト名を入力します。 [Area Name] フィールドには、次の制限があります。 • エリア名は 40 文字までです。 • 特殊文字（& > < ? ' " / [ ]）は使用できません。 **3.** [Parent] ドロップダウンリストから、親ノードを選択します。[Global] がデフォルトの親ノードです。 **4.** [Add]をクリックします。
サイトを編集します。	**1.** 左側のペインで、サイトの横にある省略記号 ••• にカーソルを合わせて、[Edit Area] を選択します。 **2.** [Edit Area] ダイアログボックスで、必要な編集を行います。 **3.** [更新（Update）] をクリックします。

アクション	手順
サイトを削除する。	1. 左側のペインで、サイトの横にある省略記号 ••• にカーソルを合わせて、[Delete Area] を選択します。 2. [OK] をクリックします。

ビルディングの追加、編集、および削除

手順

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design]** > **[Network Hierarchy]**。

ステップ 2 このウィンドウから、ビルディングを追加、編集、および削除できます。詳細については、次の表を参照してください。

アクション	手順
ビルディングを追加します。	1. [Network Hierarchy] ウィンドウで、**[+Add Site]** > **[Add Building]** をクリックします。 または、左側のペインで親サイトの横にある省略記号 ••• にカーソルを合わせ、[Add Building] を選択することもできます。 2. [Add Building] ダイアログボックスでビルディングの詳細を追加します。 [Building Name] フィールドには、次の制限があります。 • 建物名は 40 文字までです。 • 特殊文字（& > < ? ' " / [ ]）は使用できません。 フィールドに住所を入力するか、マップをクリックできます。住所を追加すると、[Longitude] および [Latitude] の座標フィールドが自動的に設定されます。この座標はビルディングの北西角を意味し、Catalyst Center と統合されている場合は、Cisco Spaces や Cisco Connected Mobile Experiences（CMX） などのロケーションサービスで使用されます。 3. [Add]をクリックします。

アクション	手順
ビルディングを編集します。	1. 左側のペインで、サイトの横にある省略記号 ••• にカーソルを合わせて、[Edit Building] を選択します。 2. [Edit Building] ダイアログボックスで、必要な編集を行います。 3. [更新（Update）] をクリックします。
ビルディングを削除します。	1. 左側のペインで、ビルディングの横にある省略記号 ••• にカーソルを合わせて、[Delete Building] を選択します。 2. [OK] をクリックします。

フロアの追加、編集、および削除

ビルディングを追加したら、それにフロアを追加できます。フロアマップのない基本フロアを追加してフロアマップを後から追加することも、フロアを追加すると同時にフロアマップを含めることもできます。

建物に基本フロアを追加するには、次の手順を使用します。

フロアとフロアマップを同時に追加するには、次のいずれかのトピックを参照してください。

- CAD マップファイルを使用したフロアの追加
- CAD 以外のマップファイルを使用したフロアの追加
- Ekahau プロジェクトを Catalyst Center にインポートします。 （8 ページ）

手順

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します： **[Design]** > **[Network Hierarchy]**。

ステップ 2 このウィンドウから、フロアを追加、編集、および削除できます。詳細については、次の表を参照してください。

アクション	手順
基本フロアの追加	**1.** 左側のペインで、建物の横にある省略記号 ••• の上にカーソルを置き、[Add Floor] を選択します。 **2.** [Floor Name] フィールドにフロアの名前を入力します。 [Floor Name] フィールドには、次の制限があります。 • フロア名は 40 文字までです。 • 特殊文字（& > < ? ' " / [ ]）は使用できません。 **3.** [Global Unit System] エリアで、[Feet] または [Meters] を選択します。 フロアが追加されると、すべてのサイトの全フロアが同期され、選択した単位系ですべての測定値が表示されます。グローバル単位系を更新するには、2D マップビューオプションを参照してください。 **4.** ワイレスデバイスがある場合、[Type (RF Model)] ドロップダウンリストで、フロアに適用する RF モデルを選択します。 RF モデルにより、カバレッジエリア内の RF 信号の相対強度を示す 2D および 3D ヒートマップを計算するときの RF の計算方法が決まります。 **5.** [Floor Number]、[Floor Type]、および [Thickness] フィールドを設定します。 フロアのタイプと厚さは、ワイヤレスデバイスのヒートマップを計算するときに使用されます。 **6.** [Floor Image] エリアでのフロアマップイメージのアップロードをスキップします。 **7.** [Width]、[Length]、および [Height] フィールドでマップの寸法を設定します。 **8.** [Add] をクリックします。
フロアの編集	**1.** 左側のペインで、そのフロアの横にある省略記号 ••• にカーソルを合わせて、[Edit Floor] を選択します。 **2.** [Edit Floor] ダイアログボックスで、必要な変更を行います。 **3.** [更新（Update）] をクリックして変更を保存します。
フロアの削除	**1.** 左側のペインで、そのフロアの横にある省略記号 ••• にカーソルを合わせて、[Delete Floor] を選択します。 **2.** [OK] をクリックします。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。